明治八年

大阪錦画新聞

第十四号

備州邑久郡笠加村の城村に温泉あり城十七年ぎ
おせいさんとかゝ浙今年
手入れらの温厚者・一とうたてち
下ぐ〳〵る仁右エ門なるよし娘のしが
第三月の十七日カノ仁右エ門の
屋舎ふて・鄙翁打波集ろ

観音講つとめ終りて
皆々へ退散たる其跡
にて娘へ何と思ひたん・フト
門へ出て帰ら祈バカノ観音の
子の手のごと多くの人手たのこい諸々
方々と尋れバコハ如何ホ仲津川の新
橋へ・ホ〳〵命と投鳩田髪もろ〳〵ば過
し日も・変て死也し者ホ系とや是も同匹
の北野村五百番地に住居して風説へ
浪花ホあーられど名へ吉村の作平の娘
ゆきて二八の令川のもくぐと散りと乱
花のあなたらいてろ〳〵ば・誰も此馬と戒
して貴重の身命をあるまとあるまし

正情堂九化誌

明治八年　大阪錦画新聞14号　文庫10-8064-13
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library